Save the Children

子ども・ユースキャラバン 2022 報告書

2022年2月3日

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン アドボカシー部



Save the Children

目次

1.【実施報告】子ども・ユースキャラバン
2.【まとめ】子どもたちの意見からわかったこと
3.【提言】セーブ・ザ・チルドレンより
　～子ども参加の仕組みづくりのために必要なこと～



Save the Children

目次

1.【実施報告】子ども・ユースキャラバン
2.【まとめ】子どもたちの意見からわかったこと
3.【提言】セーブ・ザ・チルドレンより
～子ども参加の仕組みづくりのために必要なこと～



Save the Children

子どもユースキャラバンとは？

2023年4月に発足するこども家庭庁は、「こどもまんなか」へと社会を変え、子どもの声を聴き、子どもの声を国と地方の子ども政策に活かしていくことを掲げています。
これを受けてセーブ・ザ・チルドレンでは、子どもの権利のうち、特に**「意見を表明する・聴かれる権利＝子どもが参加する権利」やこども家庭庁の目的・仕組み**などについて子どもが学び、普段の生活で感じているモヤモヤについて相談をしやすい環境や、こども家庭庁に期待することなどについて、**子ども政策に関わっている大人と直接対話を行う**イベントを開催しました。

参加した子どもたちの声（例）

学校や場所、人によって校則やルールが違い、これって当たり前じゃないんだと思った。
（名古屋・中学生）

改めて、権利に守られていると感じました。
（青森・中学生）

子ども側なのに知らないような権利がたくさんあったの**でまずは知ることから**だなと思いました。
（沖縄・中学生）



松山キャラバンの様子

Save the Children

子どもの権利としての「子ども参加」

1989年に国連総会で採択された「子どもの権利条約」では、全ての子どもたちが生まれたときから、「子ども時代を自分らしく、健康的に安心して豊かに過ごすための権利」を定めています。その中でも特に大切な4つの権利の1つが、**子どもが、自分に関わる全てのことについて意見を表明し、その意見がきちんと聴かれる権利（12条：意見を聴かれる権利）**です。世界各地で行われている子ども参加の仕組みの例には、定期的に開催される子ども・ユースが国会議員などと議論する若者議会や、子どもや若者が自由に議論するオンラインプラットフォームなど、様々な取り組みがあります。

子どもの権利条約の4原則

生きる・育つ
（6条）



さべつ されない
（2条）



その子どもにとって一番よいこと（3条）



意見を きかれる
（12条）



日本国内における様々な子ども参加の仕組み

- 定期的な対面の会議（子ども会議・委員会・議会など）
- フォーラム・首長への報告機会などの開催（市長報告など）
- 計画や条例当による宣言や制度化
- 不定期の機会や場（ワークショップなど）
- 日常的な場における意見聴取（こどもセンターや児童館など）
- オンラインアンケート・SNS

今回のキャラバンはこれ！

Save the Children

なぜ子ども参加の仕組みづくりが必要？
子どもの参加・意見表明についての条約・国内法制度

子どもの権利条約（1994年4月22日日本政府批准）が定める「意見を聴かれる権利」（CRC12条）・一般的意見12号の要旨

- 「意見を聴かれる権利」（第12条）は**自己に影響を与えるすべての事柄について自由に意見を表明するすべての子どもの権利**及びこれらの意見を**その子どもの年齢および成熟度にしたがって正当に重視される二次的権利**を定めている
- 締約国の中核的義務：意見を聴かれる子どもの権利について、**下記を子ども達に提供する仕組みを導入するため国内法を再検討しまたは改正すること**

  ①適切な情報、②必要な場合の十分な支援、③意見がどの程度重視されたかに関するフィードバック、④苦情申し立て、救済措置または是正措置の手続きへのアクセス
- 締約国は「**家庭および学校ならびに地方および国のレベルにおけるものも含む意思決定プロセスに、思春期の青少年を含む子どもが意味のある形で参加することを促進するためのプログラムを策定および実施する**」（国連総会第27特別会期で採択された「子どもにふさわしい世界」）ことを約束した

子どもの権利・「意見を聴かれる権利」の尊重が盛り込まれた国内法制度

こども基本法（2023年4月1日施行）

- **子どもの権利の擁護**が図られ、将来に渡って幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指して、こども政策を総合的に推進することが目的
- **子どもの権利条約の4原則（生きる・育つ・守られる・参加する権利）が基本であること**が明記されている
- **国及び地方公共団体のこども施策へのこども等の意見を反映させるために必要な措置を講ずること**（基本法11条）や、**国が、基本法及び子どもの権利条約の趣旨及び内容について国民に周知を図ること**（基本法15条）を規定

こども家庭庁・各自治体での意見を聴く仕組み（2023年4月1日から）

- こども基本法第11条で、国や地方公共団体に対して、こども施策の策定等に当たってこどもの意見の反映に係る措置を講ずることが義務付けられたため、**国・すべての地方自治体で子どもの意見を聴く仕組みを設ける必要がある**（詳しくは内閣官房こども家庭庁設立準備室からの事務連絡を参照）
- 具体的に、意見聴取のテーマ、手法、頻度などについては、各地方公共団体が決定し進める

これを受けて、「日々のモヤモヤ」と「子ども参加」について子どもたち自身の声を聴くために、
子ども・ユースキャラバンを開催

Save the Children

全国4か所（青森市・名古屋市・松山市・那覇市）で、100人以上の子どもの声を政治家をはじめとする大人に届けました！





那覇市
12月11日（日）

※沖縄県那覇市で開催された「子どもの権利条約フォーラム2022 in 那覇／沖縄」の分科会として「広げよう！子どもの権利条約キャンペーン」の実行委員として企画・運営しました



青森市
7月30日（土）

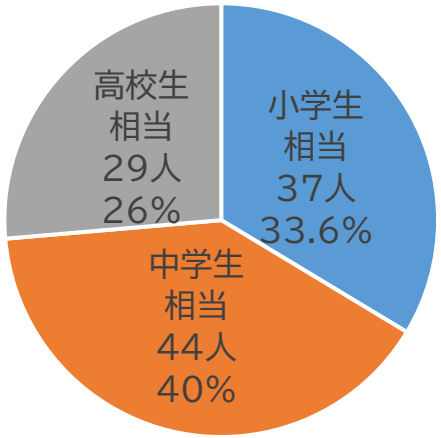
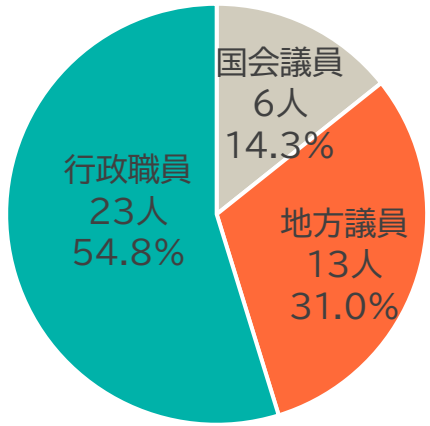


松山市
10月30日（日）



名古屋市
8月9日（火）

Save the Children

イベントの目的	• 全国の子どもへの**子どもの権利・こども家庭庁についての情報提供** • こども家庭庁や各自治体で今後実施されるであろう、**子どもの意見表明の機会づくりのパイロット事業を行うこと** • 政策決定者に意見を表明する機会を通して、**子どもたちのエンパワメントを行うこと** • 子どもたちが**「自分の声で社会が少し変わった！」と思うような体験を提供すること** • 子どもの意見を聴く**「大人の聴く姿勢」のガイドラインの作成に繋げること**
参加者	**9才～18才までの子ども110人**（青森32人、名古屋29人、松山25人、沖縄24人） **政策決定者42人**（国会議員6人、地方議員13人、こども家庭庁職員・地方行政職員23人） 他にファシリテーターとして、地域で子ども支援に携わる団体の大人15人とボランティア1人、松山会場では地元団体の高校生・大学生15人
告知方法	セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンのホームページ、SNS、関連自治体・関連団体への声掛け、地元中学校・高校へのチラシ配布、児童館・図書館へのチラシ配布　等
後援	青森：：内閣府、青森県、青森市、広げよう！子どもの権利条約キャンペーン 名古屋：内閣府、愛知県、広げよう！子どもの権利条約キャンペーン 松山：内閣府、愛媛県、松山市、広げよう！子どもの権利条約キャンペーン
参加者詳細	**子ども**  **大人** 

Save the Children

プログラムの流れ

①開会あいさつ・自己紹介・
こども家庭庁についての説明



普段の生活で感じる
モヤモヤを書き出し
お互いに話したり
聞いたり質問したり
してみたよ

③モヤモヤを言葉にしてみよう



⑤まとめ＆感想





ジェスチャーや言葉
を使って説明をして、
子どもの権利に
ついて
勉強してみよう！





モヤモヤしてること・
どんな人や場所でなら
相談しやすいかに
ついて大人と話したよ

②「子どもの権利」アクティビティ

④議員＆政策決定者とのグループワーク

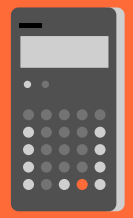
Save the Children

子どもたちから寄せられた代表的なモヤモヤ

理由のわからない校則や理不尽なルール、いじめ、意見表明についてのモヤモヤが多く挙げられました。
特に意見表明については、子どもの生活する学校・家庭・社会すべてに関連するモヤモヤが寄せられました。

家庭

高校の無償化・学習支援に所得制限があること



経済的な問題

能力によって学び方を選びたい



学校以外の居場所

社会

お年寄りにばかりでなく若者にもお金を使ってほしい



近くに公園や児童館など、自由に遊べる場所がないし、遠くて他の地域に行けない

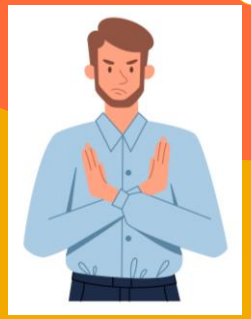
社会について



学校・公園の施設

外見についての校則（髪型、髪色、髪留めや靴下の色など）

入学前に校則を知りたい



校則・理不尽なルール

親にすべて、習い事やることをすべて決められるのって当たり前？

アンケートを取るけど変わらない意見をスルーされる



意見表明

最終的には大人の意見がすべて

生徒間で校則について話し合って先生に提案したのに、何も変わらず、その後どう扱われたのかもわからない



いじめ

相談されたときになんと言えばいいのかわからない助けたいけどこわい

学校

Save the Children

子どもと政策決定者との話し合い内容①

子どもたちのモヤモヤについて、特に多く挙げられたテーマをまとめました。相談をしても大人からの反応や、自分の意見がどう扱われたかの説明がないと、子どもは失望してそれ以降意見を言うことを諦めてしまうということや、子どもと大人との対話の機会がもっと必要だという意見が多くあがりました。



意見表明

子どものモヤモヤ

- スクールカウンセラーはいるけど、実際のところ壁が高い
- 先生には相談しづらい、内申点に影響があるのではないかと気になる

政策決定者の意見

- 子どもにとって、意見や思いを誰にどうやって伝えたらよいかわからないと実感し、大人からの歩み寄りが必要だと感じた
- 大人、特に身近で毎日接している先生や親からの「理不尽」な答えで失望し、その後意見をいうことをあきらめてしまう子どもがたくさんいる、という現実に驚いた



いじめ

子どものモヤモヤ

- いじめを先生に相談して、「ほっとけば良い」など、一言だけかけて終わりにしないでほしい
- いじめのアンケートに回答しても、秘密が守られない
- 何回話しても同じような結果で、もうやめちゃった

政策決定者の意見

- 小学生のグループで話をしたが、「いじめ」の言葉が複数の人から出てきたのは驚き
- 相談を出来る人が友達くらいしかいない、ホットライン等の対策があまり意味をなしていない

Save the Children

子どもと政策決定者との話し合い内容②



校則・理不尽なルール

子どものモヤモヤ
- 理由がわからない校則に納得できない
- 「なぜ？」と聞いてもその答えが曖昧

政策決定者の意見
- 教育の場で子どもが意見を出す場を保障し、それをきちんと受け止める学校・教師の姿勢、そして教師のゆとりある環境が大切
- 圧倒的に子どもの納得感が不足している、対話をもっと正面からしていかなければと思った
- 校則をどのグループでも関心を持っている、今の校則は大人が作ったものを子どもに押し付けている



学校以外の居場所

子どものモヤモヤ
- 学校に行くのが普通になっているけど、別の選択肢も選べるようになったらいい
- 不登校や通信制に対する偏見をなくしてほしい

政策決定者の意見
- 第三の居場所、相談体制について、大人と子どもでは認識にギャップがある



社会について

子どものモヤモヤ
- 子育てをする母親が休める制度があればいいのに
- こども家庭庁は子どもだけではなく、子どもと普段接する大人の声も聴いてほしい

政策決定者の意見
- 子育て中の親も含め、大人の声も広く聞ける制度作りを目指したい

Save the Children

目次

1.【実施報告】子ども・ユースキャラバン
2.【まとめ】参加者アンケート回答からわかったこと
3.【提言】子ども参加の仕組みづくりのために必要なこと
～子ども参加の仕組みづくりのために必要なこと～



Save the Children

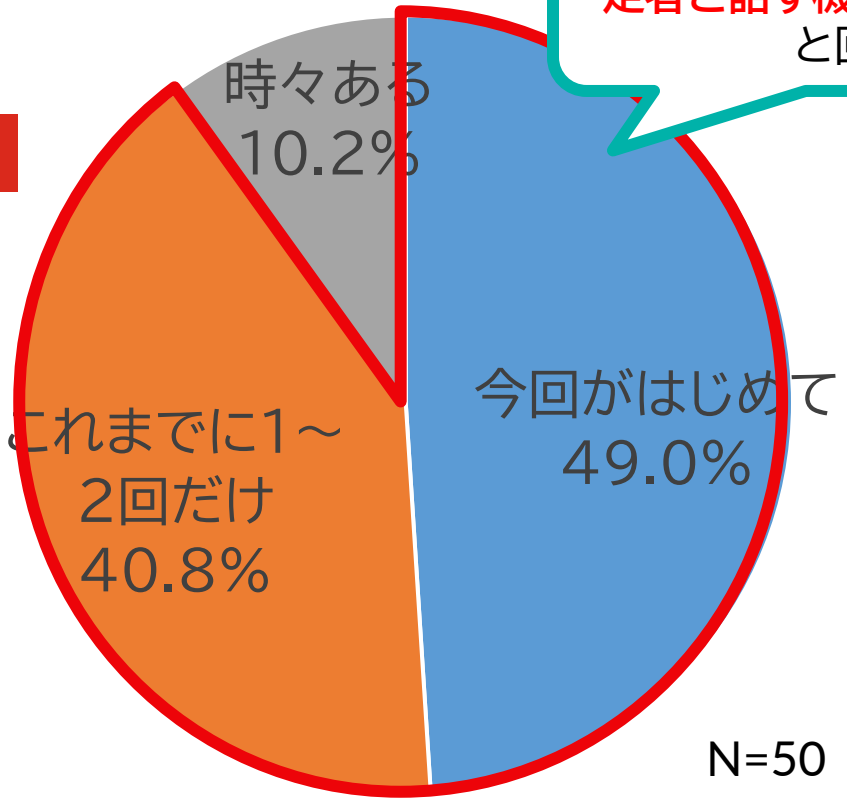
子どもと大人が話す機会が少ない

子ども・大人

議員や政策決定者と話す機会は**約半数の子どもが今回が初めて**、およそ**40%の子どもがこれまでに1～2回だけでした**。日常的に機会があると答えた子どもは、一人もいませんでした。
政策決定者も、**約4割（39%）**が業務内で子どもと話すのは、**「今回が初めて・これまでに1～2回だけ」**と回答しました。

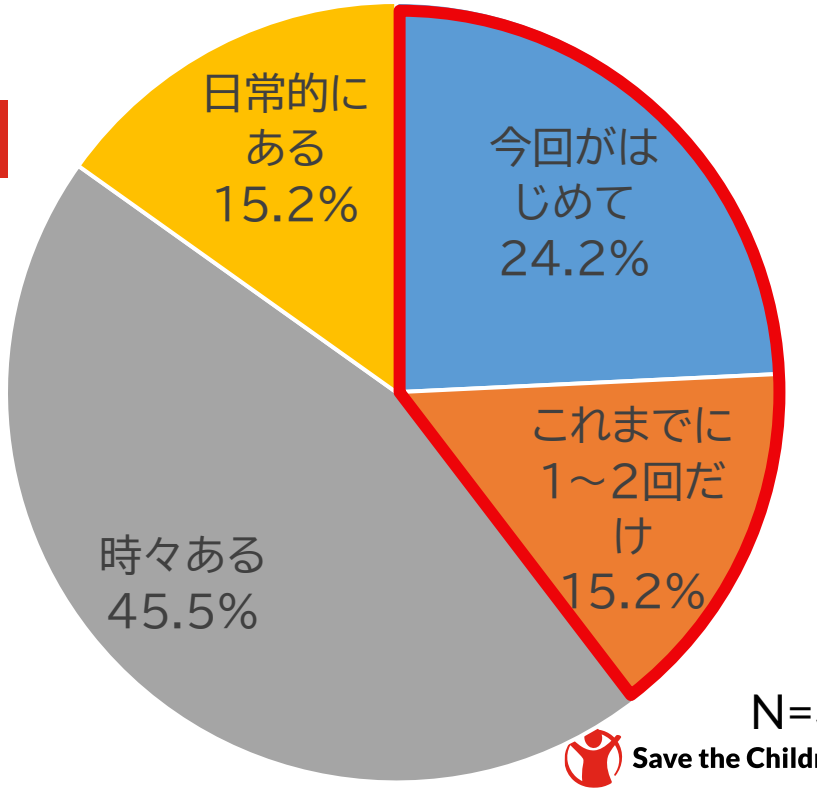
子どもの9割が議員や政策決定者と話す機会はほぼない
と回答

子ども



N=50

大人



N=33

Save the Children

子どもの権利について初めて知った子どもが多い

子ども

子どもの権利について、多くの参加者から**「沢山の権利が世界中のどんな子どもにも認められていることを初めて知った」、という声があげられました。**権利の主体として、まず自分たちが子どもの権利について知ることが大事という声もありました。

一緒のグループの皆さんと**ジェスチャーゲームをしたりして、分かりやすく各権利を伝えられたり理解することができました。**生まれながらに持つ権利を大事にしたいです。

自分が知らないだけで、たくさんの権利があり、守られたり、守られなかったりもされているんだなと思いました。

どんな子でも権利がある。

すっごい難しいことだと感じていたが、**あたりまえを本当のあたりまえにしてくれるもの**だと感じた。

権利の主役となるはずの子どもが「子どもの権利」についてよく知らなかったりしていて、**せっかくあるのだからもっと知るべき**だと思いました。

たくさんの権利の保障があったので、思っていたことを実現できると思いました。

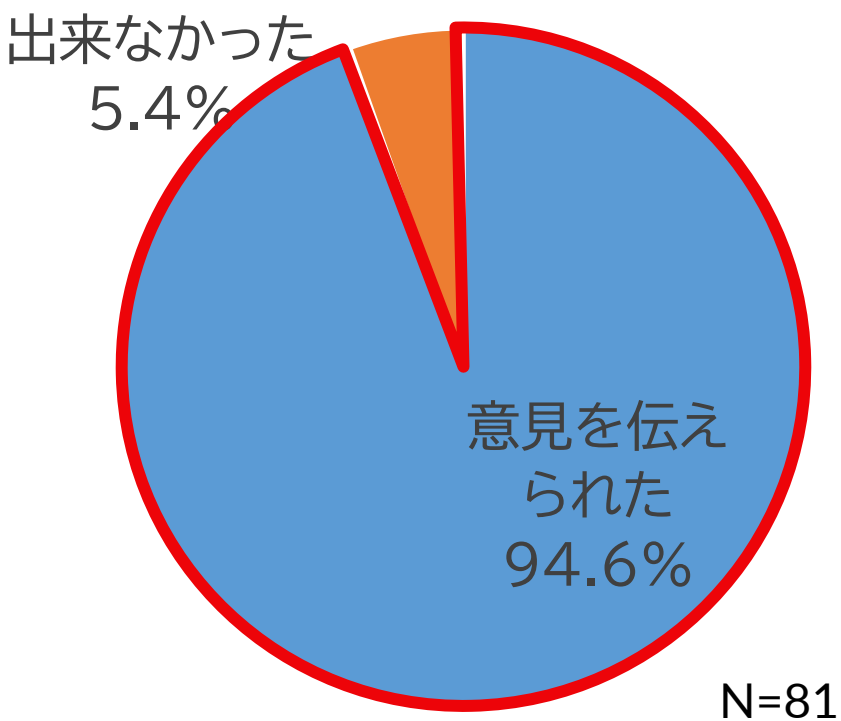
※自由回答から一部抜粋

Save the Children

子どもたちは、自分に意見表明権があると知ることで普段よりも意見を言いやすくなった

子ども

普段考えていることを、**「うまく言葉にして伝えることができた」という子どもが95%**でした。
また、「意見を言う権利を知ったことによって、何か変化がありましたか？」という質問に対しては、
ほとんどの子どもたちが「意見表明権を知ったことで話しやすくなった」と回答しました。



N=81

「意見を伝えられた」と回答した理由

- 普段考えていることを話すのは少し難しかったけど、グループの人がやさしく質問をしてくれたりしたから、話せた。
- わたしは恥ずかしがり屋だけれど、聞いてくれることで言いやすかった。

意見を言う権利を知ったことによる変化

- ふだんより意見がいいやすかった。人の意見をきけた。
- 誰にでも言っていいんだと改めて知ることができた。
- 意見が言いやすい。子どもの権利条約が後ろ盾というか…
- 自分は同じ高校の子たちと話したけど、普段の学校生活では話さないことなどをたくさん話せたので良かったです。

※自由回答から一部抜粋

Save the Children

こども家庭庁に対して期待することは、意見表明の仕組みづくりと、モヤモヤとして上がったテーマへの対応

子ども

「子どもの意見をしっかり聴いてほしい」、「意見表明が出来る仕組みや機会を増やしてほしい」という意見が多く上がりました。また、多くの子どもたちがモヤモヤを感じている、**いじめや虐待、学校での悩み、学校以外の選択肢、経済支援、ヤングケアラーなどの問題への対策**を期待する声も聞かれました。

子どもの意見表明について

- こどもが抱えている悩みを正直に相談しやすい環境づくりをして、一瞬のSOSに対応してほしい
- こども家庭庁に対して子どもが直接意見が言える場所を作って（WEB掲示板など）

いじめ・虐待について

- いじめや子どもがいやがること傷ついたりすることが、今より少なくなったり発見されやすくなったらいいな
- ぎゃくたいなどが無くなる世の中をつくってほしい

学校関係のことについて

- 子どもが学校という場で、主体的に活動できるような仕組みをつくっていってほしい
- 自分にあった教育や生活を選べるようにして欲しい
- 義務教育には選択肢が少ないと感じるので選択肢を増やす政策について関係する省庁に働きかけてほしい

経済的なこと・家庭のことについて

- 学費面についての支援
- こどもだけじゃなく親のサポートもしてほしい
- ヤングケアラーなどの社会問題の解決に率先して取り組んでほしい

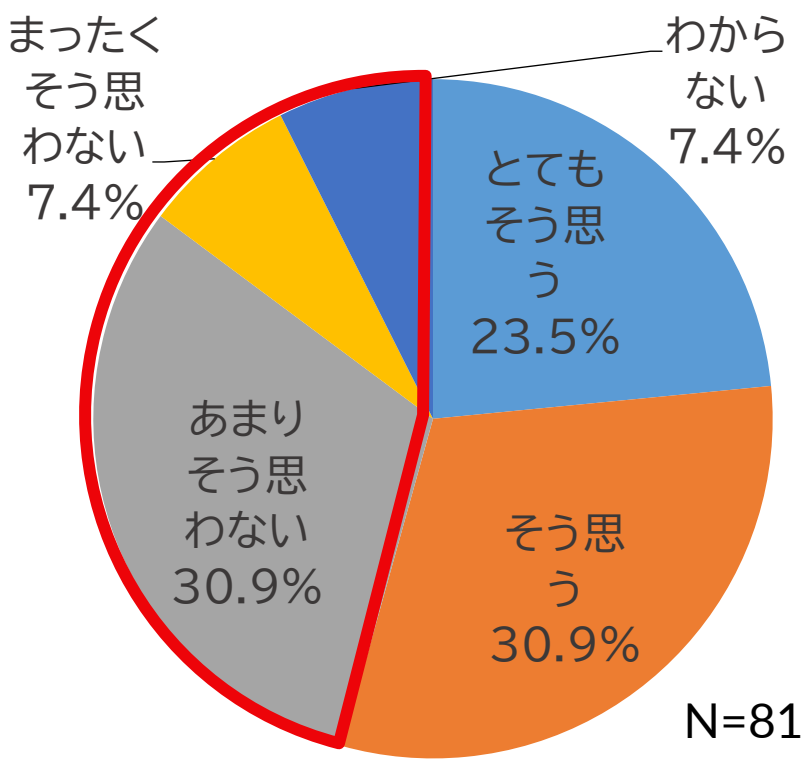
※自由回答から一部抜粋

Save the Children

子ども

政治家に自由に意見を伝えづらいのは、政策決定者に対して話す機会がない・どのように意見を伝えたらいいかわからない・言っても意見を取り入れてもらえないと思うから

「政治家（議員）に対して、社会や政治について、あなたは自分の意見を自由に言いやすいと思いますか？」という質問に対して**「あまりそう思わない・そう思わない・わからない」と答えた子どもが約4割**。理由としては、「話す機会がない」「どのように意見を伝えたらいいかわからない」「言っても意見を取り入れてもらえない」など。逆に、「とてもそう思う・そう思う」と回答した子どもたちは、今回のイベントでは、**大人が意見を聴こうとする姿勢があったので意見を伝えやすかった**と答えました。



「あまりそう思わない・そう思わない・わからない」と回答した理由

- ぼくたちの年齢では選挙に参加することができないため、そういう「場」がないのではないかと思う。/そもそも政治家に会う機会がない。
- どこからどのようにやればいいかがわからないから。
- 直接話す機会がなかなかないし、伝えても形にならないイメージがある。
- 政治家に”偉い人”という印象を持っているので、目上の人に話すというのは、気が引ける。
- 言ってもあまり意見を取り入れてもらえないとかの思いがまだ強い。

「とてもそう思う・そう思う」と回答した理由

- こういう機会が増えると更に言いやすくなると思いました。
- 私たちの意見を聞こうという姿勢を感じることができたからです。
- こちらにも質問をなげかけてくれたから。
- みんながしっかり意見を聴いてうれしかったし、うなずいてもくれたのでとてもよかった。

※自由回答から一部抜粋

Save the Children

子どもたちが相談しやすい人・場所とは

子ども

子どもにとって相談しやすい人は、**信用できる人・秘密を守る人・否定せず理解してくれる人・普段からよく話す人**で、具体的には友だちや、スクールカウンセラー、親などが挙げられました。

どこ？（相談する場所）	• 静かな場所 • 落ち着いた場所 • 秘密が守られる場所
だれに？（相談しやすい人）	• 友人 • 親 • カウンセラー
どうやって？（姿勢）	• 否定しないで受け止めてくれる • 秘密を守ってくれる • 信用できる • 理解してもらいやすい・共感してくれる • ふだんからよく話す • 自分の意見を真剣に深くきいて考えてくれる

主な理由：自分と同じ立場で話せるから共有しやすい・しっかり口止めできる・信用できる・理解してもらいやすい・普段からよくしゃべるから

主な理由：信頼できるから・話しやすいから・すぐ話せるから

主な理由：否定せず受け止めてくれるから・親以外で一番身近だから・信用できるから・専門だから

Save the Children

「子どもの声を聴く」ことについて、大人が新しく気づいたことや学び

大人

「意見の聴く側の大人向けの説明があって良かった」、**「～なのにすごいね」というような無意識な声掛けが子どもたちへはネガティブになりえるということに驚いた」**という声が多く寄せられました。

「こどもなのにすごいね」といったリアクションは「結局こども扱いしてくるのね」という印象を与えてしまうことがあるというのは、新しい発見でした。**このポイントを理解し、常に頭においておくと、使う言葉が変わってきました。**

大人が無意識にやってしまいがちなことを話し合いのため、あらかじめルールにて説明されるのは、とてもいいなあと思いました。

子どもに話してほしいために、できるだけ大人は話さないように気を使いましたが、なかなか難しいですね。でも、時間が立ってくると子どもたちが話し始めてきたので、**待つことは大事なこと**だと思いました。

子どもの意見を聴く姿勢として、ある程度信頼関係を築く必要があると感じた。**自分は何者か、どういうスタンスか、自分からもっと発信すれば良かったと反省した。**

●才なのにすごいねといったような発言が差別的な表現にあたるということ

※自由回答から一部抜粋

Save the Children

子どもの声がより聴かれ、子どもの声がより生かされる社会にするために、今後必要な施策

大人

大人・子ども双方が**子どもの権利条約について知ること**、教育の場をはじめとする**様々な形での子どもの意見を受け止める仕組み**、そして**子どもとの日常的な関係構築**が必要だという声が多く聴かれました。

子どもの権利条約についてもっともっと子どもたちが知る機会を増やすことが第一歩。また**大人も知る必要**がありますね。

いろんな関係性を子どもともつ人が、**いろんな形でこどもの意見を受け止める仕組みが必要**だと思います。こどもも、名前をだしてコミット（参画）する形で言いたいこと、普段の関係性がある人には言いにくいことなど、色々な声を持っているはずなので。

まず大切なことは**教育の場で子どもが意見を出す場を保障すること**。そしてそれをきちんと受け止める学校側、教師の姿勢が大切。そしてなにより教師のゆとりある環境をつくること。

定期的に子ども達と接し、交流し関係性をまず作ること。そこから心の意見が出ると感じています。

基礎自治体である市区町村が主体となって子どもの意見表明の場を作っていく必要がある。子どもが日常的にあつまる**児童館で子どもの意見を聴く**とか、**市独自のSNSで子どもからの意見を聴き施策に生かしていく**必要がある。

※自由回答から一部抜粋

Save the Children

子どもが話しやすい環境づくりのために、ファシリテーターが心がけたこと

ファシリテーター

子どもたちが気持ちや意見を言いやすいように、**発言者のバランス、ファシリテーターの存在感、子どもとの関係構築などを工夫した**という回答が多く寄せられました。

ひとりひとりにそれぞれの参加の理由があり、思いがある。まずはここにいてくれることをリスペクトしてそのままを受け入れること。無理に意見を求めないこと。自然にみんなから意見が出てきました。

グループのメンバー**皆が話す機会があるように、また、意見が出せない場合は考える元になるようなヒントを出したり**、など。

大人が子どもの話を聞くという意識を持って参加されていたため、**大人側の意見がなかなか出てこなかったため、意見や具体的な体験を引き出すように心がけた。**

子どもたちが受付後に席に着いてからや休憩時間など信頼関係を築くためにたくさんの話をしました。**子どもたちの話にはきちんとストーリーがあります。最初のアクティビティから議員さんとのセッションまで繋がっています。**受付してから終わるまで、ファシリはずっと同じテーブルの子達の話を聞いてあげられると、大人の理解度は違うかもしれません。

※自由回答から一部抜粋

Save the Children

【まとめ】キャラバンを通じて明らかになったこと

【子どもにとって、大人の聴く姿勢と意見を聴いたあとの大人からの反応・説明が重要であること】

- ✓ 理由のわからない**校則や理不尽なルール**についてのモヤモヤ、意見を出しても**フィードバックがない**こと、いじめの問題に悩んで**先生に相談してもスルーされてしまう**ことなどが特に多く挙げられた。
- ✓ 特に、意見表明については、子どもの生活する学校・家庭・社会すべてに関連するモヤモヤが寄せられた。**意見表明権は、他のすべての子どもの権利と繋がっており、保障されることが重要である**ことが再確認された。
- ✓ 子どもたちと政策決定者の話し合いでは、相談をしても**大人からの反応や、自分の意見がどう扱われたかの説明がないと子どもは失望して意見を言うことをあきらめてしまう**ということや、子どもと大人の対話が重要だという意見が多く聴かれた。

【政策決定者にとっては、意見を聴く姿勢についての事前説明が役に立つこと】

- ✓ 政策決定者にとっては、「意見を聴く姿勢の説明について、説明があってよかった」、「**『～なのにすごいね』というような無意識な声掛けが子どもたちへはネガティブになり得るということに驚いた**」という声が多く寄せられた。

【意見表明権について知ることで、子どもはより話しやすいと感じられること】

- ✓ 子どもの**約9割が、議員や政策決定者と話す機会はほぼない**（今回が初めて・これまでに1～2回）と回答。日常的に機会があると答えた子どもは一人もいなかった。
- ✓ 政策決定者も、**約4割**が業務内で子どもと話すのは**「今回がは初めて・これまでに1～2回だけ」**と回答。
- ✓ **政治家に対して、あまり・全く意見を言いやすくない・わからないと回答した子どもたちは約4割**で、理由として、そもそも政治家と会う機会がない・どのように話せばいいかわからない・言っても意見を取り入れてもらえないことを挙げた。
- ✓ 意見を言う権利を知ったことによって、**ほとんどの子どもたちが話しやすくなったと回答**した。

【子どもがこども家庭庁に期待することは多岐にわたること】

- ✓ 子どもたちがこども家庭庁に期待するのは、**子どもの意見をしっかり聴くこと、意見表明が出来る仕組みや機会を増やすこと**であった。また、**いじめや虐待、学校での悩み、学校以外の選択肢、経済支援、ヤングケアラーなどの問題への対策**を期待する声もあがった。

Save the Children

目次

1.【実施報告】子ども・ユースキャラバン
2.【まとめ】子どもたちの意見からわかったこと
3.【提言】子ども参加の仕組みづくりのために必要なこと
～子ども参加の仕組みづくりのために必要なこと～



Save the Children

【提言】子ども参加の仕組みづくりのために必要なこと

国の施策に対する子どもの声を聴く仕組みづくりのために

こども家庭庁に求めること

1. 子どもの発達段階に応じた、子どもの権利や子ども参加についての、わかりやすい**情報提供**
2. **子どもの声を聴く姿勢についての、大人に対する啓発活動**
3. 子ども関連組織や団体との広い**ネットワーク形成**
4. 継続的な子ども参加を見据えた、専門人材育成のための**予算の確保**
5. **子ども参加の国際ガイドラインに沿った仕組みづくり**

地方自治体の施策に対する子どもの声を聴く仕組みづくりのために

こども家庭庁に求めること

1. 子どもの発達段階に応じた、子どもの権利や子ども参加についての、わかりやすい**情報提供**
2. 子ども参加を推進する**担当部署の明確化**
3. 継続的に子ども参加の取り組みを行うための運営**予算の確保**
4. 子どもの権利に則った**子ども参加の指針**の作成

地方自治体に求めること

1. 子どもの発達段階に応じた、子どもの権利や子ども参加についての、わかりやすい**情報提供**
2. 地域の子ども関連組織や団体との広い**ネットワーク形成**
3. 継続的な子ども参加を見据えた、専門人材育成のための**予算の確保**
4. こども家庭庁作成の**子ども参加の指針に沿った仕組みづくり**

子ども参加の環境整備のために、社会全体で進めるべきこと

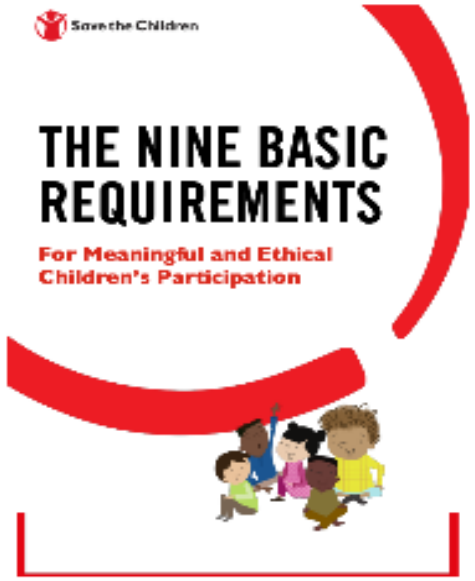
1. 大人・子ども双方に対して、更なる**子どもの権利の理解促進のための普及・啓発活動**がなされること
2. 学校や家庭において**子どもに関わることについて子どもの声が聴かれ、それが活かされる**こと

子どもたちの声を聴くための環境整備のために

Save the Children

【参考】 子どもが声をあげやすい環境づくりのための国際ガイドライン

セーブ・ザ・チルドレン　子ども参加のための9つの基本的要件
～意味のある、倫理的な子どもの参加のために～



- ✓ 要件1　透明性があり、十分な情報がある
- ✓ 要件2　任意である
- ✓ 要件3　尊重される
- ✓ 要件4　子どもの生活に関連している
- ✓ 要件5　子どもにやさしい
- ✓ 要件6　包摂的(インクルーシブ)である
- ✓ 要件7　訓練による支援がある
- ✓ 要件8　安全であり、リスクに配慮している
- ✓ 要件9　アカウンタビリティ(説明責任)が果たされる

詳細は
こちらから
ご覧ください

The Nine Basic Requirements for Meaningful and Ethical Children's Participation(2021年)を翻訳

Save the Children



Save the Children